

6月県議会 一般質問 (令和3年6月22日)

農業

米の需給調整

・米需要は減少傾向にあり、コロナの影響で需要が大きく減少して、米の価格が下落する中で、需給調整が難しくなっている。

Q酒井：米の需給調整の現状をどう捉え、水田の利活用も含めて生産調整にどのように取り組んでいくのか？

A農政部長：本県では更なる需給調整(減反)が必要。飼料用米への転換をJAと連携して進めている。園芸作物などの収益性の高い品目への転換、輸出入米等への誘導も関係機関と連携して進める。

担い手の育成

・県内に多数存在する兼業農家は、耕作放棄地の進行を食い止め、農地を維持し、雇

用を確保している。多面的な役割を評価して、農業の重要な担い手として保護・育成すべき。

Q酒井：兼業農家の役割をどう評価し、今後における兼業農家を担い手としてどう位置付けていく方針か？

A知事：兼業農家は、食料の安定供給、農村コミュニティや多面的機能の維持、農村文化の継承等に不可欠であり、地域農業を支える重要な担い手として位置付ける。

※質問を受けて、知事は兼業農家を重要な担い手とすることを明らかにしました。

Q酒井：親元就農者は、主要な担い手として育成することが適当と考えるが、支援策は？

A農政部長：県では「農業担い手育成基金」事業として、親元就農者に30万円を給付。国は補助金の交付要件を緩和することにも、新たな事業を創設するなど親元就農者への支援を拡充している。

スマート農業

・伊那市で実施した「スマート農業実証プロジェクト」について、実証農場を引き受けた農事組合法人「田原」の組合長は、「機械の導入により儲かる農業経営を期待したが、米価の下落により経営に苦慮している。」と述べている。

Q酒井：本県における、スマート農業導入の基本的な方針は？



スマート農業実証プロジェクト(無人運転)

A知事：農業分野の様々な課題解決に、スマート農業を進める。

スマート農業機器の開発が進んでいる分野の水稲・畜産・施設野菜を重点品目として設定し、生産性向上の効果が見込まれる一定規模以上の農業者を重点に導入を促進していく。

Q酒井：スマート農業を推進する上で、導入する機器が高額であることが最大の課題であるため、国や県には導入時における財政支援の実施が求められるが、どう対応していくのか？

A農政部長：一部の機器については、本年度から県単事業の活用もできるように対応。県では、民間企業と連携してより安価な機器の開発に取り組んでいる。産地間で機器を共同利用するシェアリングにも取り組む。

Q酒井：ドローンによる農薬の散布について、周辺住民から安全性に対する不安の声も想定されるため、安全性に関する県としての統一の見解を示すべきではないか？

A農政部長：国は、令和元年度に散布に係る安全ガイドライン

を作成。県独自でも指導要領を定めており、国・県の要領等に従って散布することで、安全性が確保できる。県ではこれらの内容をHP等で周知する。

※質問を受けて、知事はスマート農業を積極的に進める方針を明らかにしました。

農協改革

Q酒井：農協改革について、どのような経過となっているのか？

A農政部長：閣議決定された規制改革実施計画では、具体的な自己方針等を各JAが策定し、実践サイクルの構築により自己改革を継続するとされた。信用事業については、JAの判断に委ねられ、代理店化は強制されないこととなった。

女性の尊重

若い女性の県外流出

Q酒井：長野県の人口減少の原因を、どう分析しているのか？

A知事：特に20歳前後の女性が県外に転出して、中々戻らないことが大きな要因。

Q酒井：長野県では若い女性の県外への流出超過の実態があるが、現状をどのように認識し、その原因をどのように分析しているのか？

A知事：特に20〜24歳の女性の転出超過が男性の1.5倍近い。このうち約9割が東京圏への転出超過。女性については「公共交通機関が便利、都会の暮らしが好き」ということで、県外へ

の就職を選ぶ傾向が強い。

※質問を受けて、知事は人口減少の原因として、若い女性の転出超過があることを明らかにしました。

Q酒井：県では若い女性の流出超過を抑止するために、今後どのように対応していくのか？

A企画振興部長：20代前半の女性の流出抑止については、就職活動期の若者に伝わる効果的な情報発信が必要。20代後半以降については、子育てや教育環境の整備、暮らしやすさ魅力的なまちづくりなどを推進する。

若い女性の定着



・兵庫県豊岡市は、一旦市外に出た若い女性がその後市内に転入する割合「若者回復率」が低いとし、人口減少の最大の要因は、若い女性が豊岡市を選んでいないと分析している。

・その背景には、ジェンダーギャップが根強く残っているとしている。

※ジェンダーギャップとは、男女の違いによる格差のこと

・コロナの時代になり、生活様式や考え方が変わることが当たり前の世の中になることから、この際、慣習、しきたりなどを見直すには、絶好のチャンスと考える。

・例えば、今回のコロナ禍で、葬儀に関する様式が大幅に簡素化されたが、多くの女性の皆さんは負担が軽減されたことを歓迎している。

Q酒井：男女を取り巻く慣習、しきたりなどで、女性が不利だと感じられるものは解消していくべきと考えるが？

A知事：全くそのとおりだと思う。男女に関する慣習、しきたりを無くしていくことが重要。

Q酒井：固定的な意識や慣習などを変えていくために、生涯学習や公民館活動が最も効果的と考えるが？

A教育長：固定的な役割分担意識や慣習などを解消するための方策として、全国一を誇る公民館活動を通じた学びが有効と考える。

※質問を受けて、知事は若い女性が地域に定着するには、男女を取り巻く慣習、しきたりなどは、解消していくべきとし、若い女性に選ばれる県づくりに取り組むことになりました。

みなさまの **ご提言** や **ご要望** をお寄せください。

酒井 茂 ブログ 随時更新中!

公式サイト: <https://shigeru-sakai.com/>

酒井茂

検索



長野県議会議員 酒井 茂 事務所

〒399-4432 伊那市東春近原新田8243

TEL/FAX.0265-73-5606

E-mail: info@shigeru-sakai.com

携帯サイトへ簡単アクセス